授業科目	高次脳機能障害Ⅱ（評価）				
担 当 者	森岡悦子・中谷謙・圓越広嗣・酒井希代江				（オムニバス）
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学　　年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択･必修	必修

■ 授業目的・内容

本講義では、高次脳機能障害の症状に関する知識を基に、高次脳機能障害の各検査の目的と実施方法、結果の解釈法を理解し、障害像の捉え方を学ぶ。また症状分析に必要な情報と合わせて考察し、高次脳機能障害の症状のまとめ方を修得する。

■ 到 達 目 標

1．高次脳機能検査の目的と実施方法を学び、正しく実施することができる。
2．症状に応じて、必要な掘り下げ検査を選択し、実施することができる。
3．検査結果を正しく解釈し、病変と症状を対応させて、障害像を捉えることができる。
4．検査結果から高次脳機能障害の症状をまとめることができる。

■ 授 業 計 画

第１回　認知機能（1）：認知機能、認知機能全般のスクリーニングの意義の理解　（森岡）
第２回　認知機能（2）：言語性の認知機能のスクリーニング　　MMSE-J、HDS-R の目的、実施方法、結果解釈の理解　（森岡）
第３回　認知機能（3）：視覚性の認知機能のスクリーニング　　RCPM の目的、実施方法、結果解釈の理解　（森岡）
第４回　注意障害（1）：注意の特性と、注意機能障害の臨床像　（森岡）
第５回　注意障害（2）：改訂版 標準注意検査法・標準意欲評価法の目的と手順の理解　（森岡）
第６回　注意障害（3）：改訂版 標準注意検査法･標準意欲評価法の演習、結果の解釈、症状のまとめ　（森岡）
第７回　記憶障害（1）：記憶障害の症状、病巣との関係　（圓越）
第８回　記憶障害（2）：リバーミード行動記憶検査（RBMT）の目的と手順の理解　（圓越）
第９回　記憶障害（3）：リバーミード行動記憶検査（RBMT）の演習、結果の解釈、症状のまとめ　（圓越）
第10回　失行と失認（1）：失行と失認の障害機序と症状　（酒井）
第11回　失行と失認（2）:失行の臨床像と、標準高次動作性検査（SPTA）の目的と手順の理解、結果の解釈、症状のまとめ　（酒井）
第12回　失行と失認（3）:失認の臨床像と、標準高次視知覚検査（VPTA）の目的と手順の理解、結果の解釈、症状のまとめ　（酒井）
第13回　視空間障害（1）：半側空間無視、構成障害、バリント症候群　（中谷）
第14回　視空間障害（2）：BIT 行動性無視検査の目的と実施手順の理解　（中谷）
第15回　視空間障害（3）：BIT 行動性無視検査の演習、結果の解釈、症状のまとめ　（中谷）

■ 評 価 方 法

筆記試験　100％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

初回授業までに、1年生で学んだ「高次脳機能障害Ⅰ」の内容をよく復習しておいてください。
授業中に示された重要箇所をよく確認し復習してください。各検査については、検査手技を高めるため、空き時間を利用して自主的に練習を行ってください。

■ 教　科　書

書　名：高次脳機能障害学　第３版
著者名：石合純夫
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書　名：神経心理検査ベーシック
著者名：武田克彦（編）
出版社：中外医学社

■ 留意事項

授業中に分からないことがあれば、必ず質問をするようにしてください。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。